

## 平成 27 年度第 3 回佐倉市行政評価懇話会 要録

日時	平成 27 年 9 月 18 日（金） 15 時 30 分～16 時 12 分		場所	西部保健センター会議室 1
出席者	懇話会委員：宇田川委員、高岡委員、富田委員、林委員、武藤委員（委員長）、目等委員（副委員長）、吉村委員（五十音順）			
	事務局	福山部長、向後課長、和田副主幹、上野副主幹、櫻井副主幹、池田主任主事、上田主任主事		
	その他	傍聴者 0 人		
内 容				
◆議事				
<p>（委員長）本日の市内視察を実施した振り返りを行う。2 台の車に分かれて移動したため移動中に各委員から出ていた意見など情報共有をしたい。その点について事務局からの説明後、今回の市内視察について委員のみなさんの意見を伺いたい。それでは、事務局から説明をお願いします。</p>				
◆平成27年度行政評価対象施策に関わる市内視察について意見交換				
<p>（事務局）移動中に委員のみなさんから出された意見について、簡単に説明する。</p> <p>和田・弥富地区の農村部は豊かな緑が残り、各人口が二千人を下回っている状況である一方、西部地区は人口が数万人といった人口比となっており、特徴・課題が異なる。</p> <p>佐倉市は市立の音楽ホールや美術館などがあり、他市と比較して文化的に豊かで施設の管理などもきちんとしていた印象をもった。</p> <p>市内全域を移動し、景色が地区ごとに全く異なることが印象的だった。</p> <p>市の特産を活かしたご当地グルメ・佐倉丼を提供している店舗が少ないことや、有名なイタリアンの店や観光施設を案内しようとした時に目印となる看板が少ない等、いろいろな観光資源を活かしきれていない感がある、という意見をいただいた。</p>				
<p>（委員長）続いて、委員のみなさんの意見を伺いたい。</p> <p>（宇田川委員）市内全域を回ることができ、視察のコース選定が良かった。視察の中で京成佐倉駅から国立歴史民俗博物館への道案内の改修について説明を受けたが、看板等を効果的に設置するなど充実させて欲しい。道路標識も含めてわかりやすさとアクセスの利便性を改善すべきである。</p> <p>地区別で見ると、比較的人口の少ない地域に観光・歴史・文化資源が集中し、人口の多い西側の地区にはそういった資源が少ないので、その点を融合できれば良いと、この視察を通して感じた。</p> <p>（委員長）歴史的な佐倉地区と志津・ユーカーリが丘地区等の新興住宅地は地域性が異なるため、全ての区域が一体となって市内の活性化に取り組めるような地域交流の施策が求められる。</p>				
<p>（富田委員）公共施設の規模については地区ごとにバランスが取れていると感じた。一方で、市役所本庁舎と視察で訪れた施設のトイレを確認したところ、暖房便座や温水洗浄機能の有無が統一されていない点が気にかかっている。どこの部署で仕様を決定しているのか。</p> <p>（事務局）資産管理経営室が、ランニングコストを含めた全体のコスト計算をした上で、それらの機能の有無について決定している。市役所議会棟のトイレには暖房便座および温水洗浄機能がついているが、震災による節電のため利用していないこともあった。改修した市役所本庁舎のトイレは、それらの機能を標準装備としていない。一方、オストメイト対応など、多機能を備えた多目的トイレの整備も必要であるため、判断基準も含めて整合性をとりたいと考えている。</p>				

(富田委員) 京成佐倉駅の駅前の看板はどこ部署が仕様を決定するのか。

(事務局) 産業振興課でデザインを委託し、最終的に市長が決定する予定である。従前よりサイン計画はあったが、経費がかかり、担当課でそれぞれに作成していたこともあり、徹底されているとは言い難かった。佐倉市の顔として駅前を含めたエリア全体の整備を含め、今後は考慮していきたい。

(高岡委員) 全体的に公共施設への案内表示が少ないのではないかと。例えば、今日訪れた和田ふるさと館などは案内看板も少なく、自力では人を案内する自信がない。もっと整備をして欲しい。

(林委員) 旧堀田邸、佐倉順天堂記念館、国立歴史民俗博物館等を見学したが、緑が良く手入れされている。都市部と自然豊かな地域と、それぞれの地区にメリハリがある。

施設は点在しているが、緑の中にありドライブや散策などで行く甲斐があると感じる。推奨ルートの設定や案内看板が充実すると楽しめると思うが、現状では行きづらい。

東京から近くでこれだけ緑があり、手入れがされている地域というのは良いところなので、この緑を維持して欲しい。

(吉村委員) 配布のあった直売所をまとめて掲載している直売所マップを活用してもっとPRしたらどうか。旧堀田邸の庭園が素晴らしいので、もっと活用の幅を広げてほしい。

また、市内に4つのミュージアムがあることは珍しく貴重なことである。市立美術館、国立歴史民俗博物館、DIC川村記念美術館、塚本美術館、このミュージアム4箇所を回遊してもらえるルートの設定など、もっと連携が図れないか。

(目等委員) 観光資源として良いところはありますが、市民でさえ全部を知っている人は少ない。個々に宣伝はしているが、全体として連帯・連携の取組みが欠けている。

もっと東京から人を呼ぶ工夫がほしい。例えばDIC川村記念美術館が佐倉と東京をつなぐバスを運行している。行政には難しいかもしれないが、このような取り組みができれば素晴らしい。

市内の観光に際しても、施設が点在しているので、自由にまちを巡れる交通手段がほしい。見たいスポットを巡れるバスや人力車、6・7人乗りの観光用のタクシーなどの方策を考えたら良いのではないかと。

施設までのアプローチの印象も大切である。例えば、DIC川村記念美術館は、駐車場から美術館の入り口までが並木の木陰を通るアプローチで、雰囲気があり楽しめる。参考にしてほしい。

(委員長) 佐倉市は、昭和の大合併で複数の町村が一緒になった経緯があると説明があった。農村地域が残っている状況は大切である。多様性維持のため、「人口を増やさなければ」と無理な開発を行うようなことはあえてしなくてもよいのではないかと。

#### ◆その他

(委員長) 今回の振り返りを踏まえ、次回から始まる部局との意見交換にあたり、確認しておきたいことや用意してほしい資料、質問などがあればお願いします。まずは事務局より、今後のスケジュールについて説明をお願いします。

(事務局) 第4回懇話会を10月21日(水)、第5回懇話会を11月10日(火)に予定している。

次回10月21日(水)は

「第4章 基本施策8 「佐倉ならではの」を創造・発信するまちにします」

「第4章 基本施策9 芸術文化活動の盛んなまちにします」

「第5章 基本施策7 公共交通機関が利用しやすいまちにします」

について、担当部局との意見交換を予定している。

この中で「第5章 基本施策7 公共交通機関が利用しやすいまちにします」への質問は、

事前に十分にいただいているので、「第4章 基本施策8 「佐倉ならではの」を創造・発信するまちにします」、「第4章 基本施策9 芸術文化活動の盛んなまちにします」についての担当部局への質問をとくに受け付けたい。

(委員長)「第4章 基本施策8 「佐倉ならではの」を創造・発信するまちにします」の、今後の取組方針「歴史文化遺産を活用とした交流人口(来訪者)の増加に努めます」について、過去の来訪者数を教えてほしい。また、これまでの来訪者の推移と、今後の目標や目指している方向性などがあれば担当部局からの説明をお願いしたい。

(林委員)「第4章 基本施策9 芸術文化活動の盛んなまちにします」について、市立美術館や市民音楽ホールでの事業内容、参加者の年齢層について伺いたい。

(事務局)事業内容や参加人数についてはお示しできるが、年齢層についてはカウントを取っていないため、回答は難しいと思われる。

(宇田川委員)文化財の数や残したい資産は把握できているのか。歴史文化資産について、佐倉市として残したい資源はどんなものがあるか、保存等にどのような問題があると把握しているか伺いたい。

(事務局)貴重な文化財遺産は国および県の指定・登録文化財として登録されている。また、地域住民に長く保護され、継承されてきた資産は、市民からの申請により市民文化資産として登録している。保存にかかわる問題点については、担当部局より示したい。

(委員長)その他、質問事項や用意してほしい資料などがあれば、個別に事務局へ連絡いただきたい。

では、本日の会議は以上とする。

(16時12分 終了)